

◆ PCCプラクティス・コース受講方法 ◆

▶▶ 受講条件：

ロジャーズ・ジェンドリン理論、クライアント中心療法、フォーカシングなどの理論を履修修了者。
(*未履修の方は、理論学習から受講することを推奨)

▶▶ 修了認定：

パーソンセンタード・カウンセラーと名乗ることの判断
2年以上の学習で①～⑤まで 170 時間以上を修了した者。本人、講師、メンバーによる話し合いで修了認定を行う。本人の判断を最優先とする。

▶▶ コース申込方法

URL : <https://npo-cesc.or.jp>

の申し込みフォームから。

▶▶ 学び方：

1. PCC プラクティス・コースに所属登録
(会員登録 3,000 円 / 年会費) する。
2. 1 年目は、①～③の各クラスを月 1 回、計 3 回受講し
1 年間で合計 104 時間の学習を行う。1 年間で 3 クラス
受講できない場合は、2 年間での受講も可能とする。
3. ④理論学習は、適宜受講すること。
4. PCC コース修了：2 年以上で 170 時間以上の学習。

▶▶ 受講料：

PCC 1 期生：会員登録 3,000 円 / 年会費

*①②③ 同時受講 (104h)：147,000 円

①エンカウンター・グループ (10 回 54h)：77,000 円

②傾聴プラクティス・クラス (10 回 25h)：55,000 円

③ PCC 面接法・クラス (10 回 25h)：55,000 円

④ PC/EA 理論学習：CESC サイト参照

NPO CESC「学び」2023 研修講座

パーソンセンタード・カウンセリング (PCC) プラクティス・コース

● お申込・問い合わせ ●

特定非営利活動法人

カウンセリング教育サポートセンター

Counseling Education Support Center

NPO CESC (セスク)

URL <https://www.npo.cesc.or.jp>



特定非営利活動法人

カウンセリング教育サポートセンター

Counseling Education Support Center

NPO CESC (セスク)

URL <https://www.npo.cesc.or.jp>

パーソンセンタード・カウンセリング (PCC) プラクティス・コース

少人数で、月3回ほど集まり、2年間で、パーソンセンタード・カウンセラーとしての力を獲得していくコースです。

▶ PCC (パーソンセンタード・カウンセリング) とは

- ★ロジャーズ・ジェンドリン理論 (PC/EA)、ヒューマニスティック心理学、カウンセリング心理学、心理学、人体学、健康学などを背景とし、「深い傾聴」を基本とした個人・集団援助の統合的技法である。
- ★「深い傾聴」は態度条件の「一致 (純粋性・透明性)」をその肝とする。
- ★クライアントの暗に体験しつつある体験をより十分に気づきをもって体験をしていくプロセス。
- ★PCC は個人一人ひとりの成長、より自由により自分らしく生きることと社会的課題解決を目指す。

▶ PCC プラクティス・コースの目標：

- 自分の内側「パーソン・インサイド」と深くつながることにより、より自由により自分らしくあることを目指す (一致・純粋性・透明性) …社会的定型的存在様式から内臓感覚的存在様式へカウンセラーの基本態度。
- 知的理解と身体・感覚理解の融合を図る→「からだ・こころ」と「あたま」をつなぐ。
- 感覚・感性のブラッシュアップを行う。
- 「粹」(“観” “ものの考え方見方” ともいう) の検討及び自身の「粹」の棚上げを目指す。
- PCC の技能を用いて心理相談、対人援助を行う PCC カウンセラーと成る。

▶ PCC の人間観・哲学

- 個人は成熟の方向へ向かって変化していく力と傾向を自らのうちにもっており、その力と傾向が明らかにそして、内在している力を発揮していく。現れていない場合でも、その力と傾向は個人の中かに潜在している (実現傾向)。
- 人間一人ひとりの存在を大切に、個別・具体的な人間存在を尊重する (実存的立場)。
- 過去や将来・未来ではなく、「今・ここで」を中心にする。

▶ PCC が基本とするクライアント中心療法の有用性について (小林孝雄 2022 CESC PC/EA 引用)

- ★さまざまな領域、アプローチにも共通する助者としての態度・技法が整理されていること。
- ★態度：「一致 (or 真実性・透明性)」「無条件の積極的関心」「共感的理解」 技法：「リフレクション」「明確化」など。
- ★クライアント中心療法でしか想定されていない心理的变化、人格的成長が想定され、それは、カウンセリングのみならず、広く人間関係に当てはまることである。
- ★ヒューマニスティック心理学の代表であり、本アプローチが描く人間像が重要であること。
- ★分かってもらえると (深い傾聴を続けていく) 脅威がなくなり安心感を感じ鎧を脱ぐことが可能になる。…そして、その人は初めて自分の気持ちに素直に向かうことが出来るようになり、内在している力を発揮していく。

◆ PCC プラクティス・コース・研修クラス (原則 ONLINE 形式) ◆

①	<p>◆合同セッション： 2003/5/7 (日) 10:00 ~ 12:00 (2h)</p> <p>◆エンカウンター・グループ： 5/7 (日) 13:00 ~ 17:00 (4h)</p>	<p>PCC プラクティス・コースの第1期生、2年間の学びの初頭に、講師・メンバー全員集合して自己紹介や受講の目的・期待すること・講師の思いなどをシェアし、仲間づくりをする。</p>
①	<p>◆エンカウンター・グループ： 1回6時間 年間9回、52時間 *ファシリテーター：吉原 啓/辻 孝弘 *月1回 原則第4土曜 9:30 ~ 17:00 5/7 (日)、5/27、6/24、7/22、9/30、10/28、11/25、12/23、1/27</p>	<p>パーソンセンタード・カウンセラーのトレーニングにおいては、理論や実践だけでなく、「人間的な成長 (personal development)」が重要視されています。この人間的な成長を促進する方法として、エンカウンター・グループがパーソンセンタード・カウンセラーのトレーニングとして採用されてきました。エンカウンター・グループは、宿泊形式で開催されることが多いのですが、本コースでは、1年間同じメンバーで、月に1回 (全10回) という継続的な形で実施します。このような形式でエンカウンター・グループをカウンセラー・トレーニングとして行うことは、日本においては今までなかったのではないのでしょうか。今回はオンラインでの試みになりますが、同じ志を持った仲間と一緒に、安心して自分に向き合えるそんなグループにしていきたい、と考えております。グループ体験を通して自分の内面を見つめることによる気づき、より深い理解を目指す。メンバー同士内面を伝え合うことで自分らしさに触れ、一人一人の世界が大切にされるようグループを共につくっていきましょう。なお、現在、心身の治療やカウンセリングを受けておられる方は、治療者・カウンセラーに相談されたうえでお申込みくださるようお願いいたします。</p>
②	<p>◆傾聴プラクティス・クラス： 1回2.5時間年間10回合計25時間 *前期 月1回火曜 19:00 ~ 21:30 (5回) 講師：諸富祥彦 5/9、6/13、7/11、8/22、9/12 *後期 月1回土曜 19:00 ~ 21:30 (5回) 講師：小林孝雄 10/7、11/4、12/2、1/6、2/3</p>	<p>ほんものの深い傾聴を身に付けることを目指す。</p> <p>傾聴：諸富祥彦 ロジャーズもいうように、傾聴は、多くの方が思っているよりも、はるかに深いものです。厳しいトレーニングが必要です。基本に即しながらも、ご自分のよさを活かした傾聴を体得していきましょう！</p> <p>傾聴：小林孝雄 傾聴は、クライアント中心療法に限らず、心理臨床の多くのアプローチにおいて支援の基本と位置付けられています。また、心理臨床や心理支援の領域にとどまらず、一般の人間関係においても重視されることがあります。この傾聴というものについて、その人間的成長に対してもつ可能性に注目し、傾聴を追究し、関係や技法の中心に据えたのが、クライアント中心療法、パーソンセンタード・アプローチだと言えましょう。クライアント中心療法の傾聴を学ぶことを通して、傾聴というものの奥深さを知ることができればよいのではないかと考えています。</p>
③	<p>◆PCC 面接法・クラス： 1回2.5時間年間10回25時間 *講師：村里 忠之・笈田 育子 *月1回 原則 第2木曜 19:00 ~ 21:30 5/11、6/8、7/13、8/10、9/14、10/12、11/9、12/14、1/11、2/8</p>	<p>今日カウンセリングは様々な流派の独自な理論と実践傾向を超えて、より統合されたカウンセリング / 心理療法の方向へ向かっているように思われます。パーソンセンタードな態度は、いわば伏流水のように近年の諸理論技法に結晶化しています。よって理論はともあれ、カウンセリングにおけるパーソンセンタードな態度は、カウンセリング / 心理療法の普遍的で基本的な姿勢となりうるのです。問題はそれをどのように実践するか、できるかです。そこで、PCC 面接法クラスは、次のことを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> *クライアントの混乱した言動と弱化した意欲を聴く能力 (自分の価値 / 意見を言わない能力) *相手の内外的状況を読む能力 (見立てを含む)。 *カウンセリングの枠組みを自覚すること (場の設定)。 *薬物・認知行動療法等の技法が限定的に有効であることを知ること。 *状況を生きる意欲への誘い (自他が一致すること：自然 (内外の秩序) に触れ、それと共に生きる感覚の回復を促進すること)。 <p>これらはパーソンセンタードな臨床態度を徹底したとき、また他の隣接諸領域と連携してきたときに可能になることを理解し、実践的に身につける。そのためのロールプレイ、グループワーク、ケース検討を行います楽しみながら頑張りましょう。</p>
④	<p>◆PC/EA 理論学習 (動画で学ぶ)</p>	<p>*ロジャーズ理論 *ジェンドリンの体験過程 *人間性心理学</p>
⑤	<p>◆フォーカシング・ワークショップ (対面形式) *1回 時間 年間 回 時間</p>	<p>調整中</p>